

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 721 号	氏名	Mussazhanova Zhanna
学位審査委員	主 査 高村 昇 副 査 江口 晋 副 査 福岡 順也		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、DNA 損傷応答 (DDR) 分子であり、癌細胞での自然発症性二重鎖切断 (DSB) の分子マーカーである 53BP1 の発現パターンを、甲状腺微小乳頭癌 (PMC) において観察し、BRAF 遺伝子変異や甲状腺外組織浸潤、リンパ節転移との関連を解析したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 病理診断に供された定型的甲状腺癌 (PTC) と PMC の外科切除標本から DNA を抽出し、BRAF 遺伝子変異を解析すると同時に、53BP1 発現を蛍光免疫染色によって観察し、これらと臨床病理学的因子との関係を統計学的に解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、53BP1 異常型/高 DDR 型発現は、BRAF 変異のほか、PMC の classic type や PTC の甲状腺外組織浸潤と関連することが示された。このことは、53BP1 異常型/高 DDR 型発現が甲状腺乳頭癌早期での BRAF 変異を有する乳頭状/索状組織構造と後期での甲状腺外組織浸潤能の獲得に関与することを示唆するもので、今後、PMC の新規予後因子同定への貢献が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は甲状腺微小乳頭癌の予後因子解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			